

吉益東洞 医案③

泉州佐野の豪族、食野喜兵衛の家僕、元吉なる者、年二十余。治を請うて曰く、嘔噎二年ばかり。十日五日必ず発す。頃者は胸腹脹満し、挙体愈安んぜず。衆医皆以為らく治せずと。一も方を處する者なし、蓋し先生の論を聞くに、死生は点の命ずる所、疾病は医の治する所なり。等しく死せば、願わくば先生の治に於いて死なん。幸と為しこれを瘳せよ、先生大半夏湯と為しこれを飲ましむ。飲めば輒ち随いて吐す。吐する毎に必ず粘痰を雜う。居ること八九日。薬始めて下るを得。飲食腹び吐せず。出入すること二月ばかりにして全愈す。